

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## 札幌観光バスSDGsへの取り組み

2021年10月現在



### 3.5 薬物乱用やアルコールの有害な摂取を含む、物質乱用の防止・治療を強化する

定期的な社員への啓発とともに、薬物については抜き打ち検査を行うなど、徹底的な物質乱用の抑止に取り組んでいます。

### 3.6 2020年までに、世界の道路交通事故による死傷者を半減させる

- ・ADAS技術を搭載した車両の導入、日常的な点検・整備による車両の安全性担保、定期的な乗務員教育や、危険箇所の乗務員間の共有（ハザードマップなど）を通じた事故ゼロ目標に取り組んでいます。
- ・IoT技術を活用してタイヤの状況を運行管理者がモニタリングし、事故の可能性を未然に摘み取るように取り組んでいます。

### 3.8 全ての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成する。

一定の年齢に達した乗務員への脳ドッグ受診、S A S（睡眠時無呼吸症候群）検査、緑内障と白内障検査、また全社員のインフルエンザ予防接種などを会社負担にて実施し、継続的にモニタリングを行うことで全社員の健康増進に取り組んでいます。

4 質の高い教育を  
みんなに



4.4 2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。

未経験者を雇用し、乗務員として育成する取り組みを継続的に行い、活躍の場を提供しています。

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



5.1 あらゆる場所における全ての女性及び女兒に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。

女性管理職の登用など、性別に関わらず仕事や昇進の機会を提供しています。

5.5 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。

女性管理職の登用など、性別に関わらず仕事や昇進の機会を提供しています。



**6.4** 2030年までに、全セクターにおいて水利用の効率を大幅に改善し、淡水の持続可能な採取及び供給を確保し水不足に対処するとともに、水不足に悩む人々の数を大幅に減少させる。

洗車時に使用する水には地下水も活用し、水資源の有効活用を進めております。



**7.a** 2030年までに、再生可能エネルギー、エネルギー効率及び先進的かつ環境負荷の低い化石燃料技術などのクリーンエネルギーの研究及び技術へのアクセスを促進するための国際協力を強化し、エネルギー関連インフラとクリーンエネルギー技術への投資を促進する。

- ・高燃費かつ排ガスのクリーン化を進めた車両の導入を進めています。
- ・デジタコによる省エネ運転のモニタリングを行うとともに、デジタコの成績優秀者の表彰制度を導入し、乗務員の省エネ意識向上に取り組んでいます。

8 働きがいも  
経済成長も



**8.6 2020年までに、就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若者の割合を大幅に減らす。**

継続的に高校や専門学校を卒業した若年者の採用を行なっています。

**8.9 2030年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。**

自治体や各地の地場産業のプレイヤーと連携し、オンラインも活用した観光商品の開発に取り組んでいます。

9 産業と技術革新の  
基盤をつくらう



**9.4 2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。**

クリーンエネルギーを利用した車両の導入等を通じて、交通インフラの改良に取り組めます。

10 人や国の不平等  
をなくそう



10.2 2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、全ての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。

年齢や性別、国籍に関わらず、働く機会と昇進・昇給の機会を提供しています。

11 住み続けられる  
まちづくりを



11.2 2030年までに、脆弱な立場にある人々、女性、子供、障害者及び高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、全ての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。

- ・車両の保全や乗務員教育により、安全性を最大限に高めたバス輸送の実現に取り組みます。
- ・敷地の一部を駐輪場として一般に開放し、公共交通機関を利用する方々の環境整備に取り組んでいます。

11.b 2020年までに、包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靱さ（レジリエンス）を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、仙台防災枠組2015-2030に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。

泊原発に不測の事態が発生した場合には、住民避難の輸送を担います。（北海道庁と協定締結済。複数回の避難訓練を実施済）

12 つくる責任  
つかう責任



**12.4** 2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。

排ガスがクリーン化された車両の導入を通じて、有害物質の放出抑止に取り組みます。

**12.5** 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。

データに基づくタイヤのローテーションを行い、長くタイヤを使うことで廃棄物の低減に取り組んでいます。

17 パートナシップで  
目標を達成しよう



**17.17** さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

自治体や地域の人々との連携により、各地域の文化風習などの資源に焦点を当てた観光コンテンツの創出に取り組んでいます。